

患者さんへ

「当院における自己免疫性胃炎に関する観察研究」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2012 年 1 月から 2023 年 7 月に当院で検査を行い、抗胃壁細胞抗体または抗内因子抗体のどちらかが陽性となった全ての患者さん
2 研究目的・方法	自己免疫性胃炎は自己免疫的機序により、ビタミン B12 や鉄などの吸収障害が起こると言われており、悪性貧血、その他の自己免疫性疾患の合併、神経内分泌腫瘍や胃癌を合併しうると報告されていますが、依然不明な点が多い疾患です。 当院の自己免疫性胃炎の患者背景、検体検査、内視鏡的、病理学的検討を行います。前記を検討することによって、自己免疫性胃炎の病態理解につながることを期待できます。さらに早期の自己免疫性胃炎の診断を確立することで、早期診断・治療を可能とし、より適切な診療体系が期待できます。 方法は該当する方を研究対象者として登録し、登録時以降に「4. 研究に用いる情報の種類」に記載されている臨床情報を診療録より取得します。 研究の期間:施設院長許可後(2023 年 5 月 15 日)～2024 年 3 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
4 研究に用いる情報の種類	情報:年齢、性別、病歴(制酸薬の内服歴、ヘリコバクター・ピロリ感染/除菌状況、癌の合併、自己免疫疾患(慢性甲状腺炎など)の有無)、内視鏡所見、採血・検査結果(ヘモグロビン、平均赤血球容積、ビタミン B12、鉄、フェリチン、抗胃壁細胞抗体、抗内因子抗体、ガストリン、ヘリコバクター・ピロリ抗原/抗体) 等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 隅田ちひろ 湘南鎌倉総合病院 消化器病センター 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717